

みんなで語る会報告書

対象団体	指宿中央通商店街振興組合
テーマ	「歩きやすい・歩いて楽しい通りへ」
開催日時	平成23年11月2日(水) (15時00分～16時30分)
開催場所	丹波校区公民館
参加者数	組合員…20人 いぶすき町づくり協議会…2人 指宿商工会議所…2人 指宿市…15人

総計39名

会次第

全体進行・・・市長公室長

- 1 開会のあいさつ (片野田茂久組合長)
- 2 市長あいさつ
- 3 駅前中央通りの状況報告および課題の提起等 (組合長)
- 4 いぶすき町づくり協議会・有村会長あいさつ
- 5 グループごとの協議 (進行・富永副市長)
- 6 各グループの発表・まとめ
- 7 閉会のあいさつ (組合長)

内容等

1. 開会のあいさつ (片野田茂久組合長)

本日は、駅前中央通りで営業をされている方々、地権者の方々に声をかけさせて頂いた。また市役所、商工会議所、いぶすき町づくり協議会の皆様にも来て頂いた。本日は新しい商店街に向けての提案も提示されるようだ。今回の語る会を契機により素晴らしい商店街づくりができることを望んでいる。

2. 市長あいさつ

外部の情報交換会などに出席すると、「駅前はなんとかならないか」と言われる。指宿市はなにが変わったのか、何をしたのかとは常に問われる問題だ。私の初心として自分の公約を持っている。それは「温泉と健康、自然、歴史、地域資源を活用した観光誘致」「魅力ある共生のまちづくり」「行財政改革」「安心安全な教育環境の整備」「スポーツ施設の整備と合宿の誘致」「薩摩と大隅との交流」「女性の社会参画拡大」「障害者の自立支援」といったことである。それを日々確認して、何が変わったのか、どう変わっているのかを反省している。

今日の皆さんの意見は市政運営への提言になるものだと思っている。駅前をどうしたいのか、どうすることができるのか、それぞれの立場から忌憚のないご意見をいただきたい。

3. 駅前中央通りの状況報告および課題の提起等 (組合長)

中央名店街の状況、課題について説明したい。昭和52年に振興組合を設立した。当初は60店舗だったが、現在は22店舗となっている。組合長は私で三代目となる。アーケードも築34年でだいぶ老朽化している。いつどこが崩れてもおかしくなく、また鳩が住み着いていて、歩行者の迷惑になっている状況だ。

空き店舗についてだが、新幹線開業後は若手の経営者が出店しており、かつての賑わいを徐々に取り戻しつつある。また私の方にも出店の問合せが来ている。

本日はいぶすき町づくり協議会の有村会長もお見えだが、今後中央名店街を国土交通省のモデル地区として指定していただき、観光客のみならず地元の方々にとって買物を楽しめ、憩いの場となる商店街にしていきたい。先だって豊留市長よりご提案いただいた、商業特区としての施策にも取り組んでいきたいと思う。

今後の商店街についてだが、将来像を新たに考えてもいいのだが、平成19年にいぶすき町づく

り協議会により、素晴らしい提案がなされているので、これをベースに進めていければと思う。

5. いぶすき町づくり協議会・有村佳子会長あいさつ

- ・いぶすき町づくり協議会設立の経緯，活動について
- ・全国都市再生モデル（国土交通省）への取り組みについて
- ・SPADO, IT 湯治への取り組みについて

6. 各グループの発表・まとめ

（4グループに分かれ、その中で各人が次の①②③について提案。それをグループ内で協議し、集約した後に、グループの代表者が発表）

- ①駅前中央通りの「ここが自慢できる」、「ここがいい」というものについて
- ②駅前中央通りが（歩きやすい・歩いて楽しい通りへ向けて），これからどのようにしてほしいか、どのようにしていきたいか
- ③そのために、自分たちにできること、指宿市にしてほしいこと

1班

①「ここが自慢できる」、「ここがいい」というものについて

- ・（見方によれば）昔ながらの風景が残っていて風情がある
- ・飲食店が多い
- ・アーケードがあるので、天候に左右されない
- ・道幅が広い
- ・中央通りをもとに人のつながりがある。協力的である

②これからどのようにしてほしいか、どのようにしていきたいか

- ・通りで働いている人、暮している人のつながりを太くしたい。まだ壁がある。つながりからおもてなしの体制を作りたい
- ・営業をしていて「砂むしはどこ？」と良く聞かれる。案内看板が不十分。まちあるきに看板は不可欠
- ・若い人を含めた話し合いの場が欲しい。そこから新たな取り組みが生まれる
- ・空き店舗をなくすためには、バックアップ、協力体制が不可欠。通り組合が窓口となってもらいたい
- ・現状は観光客が来ても素通り。何か楽しめる、面白いものが必要ではないか

③自分たちにできること、指宿市にしてほしいこと

<自分たちにできること>

- ・話し合いの場を作る。それがおもてなしの体制作りにつながり、新たな事業に繋がる

<指宿市にしてほしいこと>

- ・特になし

【意見発表】

（組合員）

・これからどのようにしてほしいかについてだが、今指宿に観光客が来ていて、おもてなしの心が大切だといわれているが、そのためにもまずは商店街のみなさんで話し合いをすることが必要。いろいろな意見を出しながら、絆を深めていければいいのではないかと思う。

・指宿市には、市民と商店街とのパイプの役目をして欲しい。ただ自分たちだけが話し合うのではなくて、話し合いに入っていただきたい。商店街やそれ以外の人も関係なく、民間・行政の壁もなくして、本当に言いたい意見を言って提言、目標とし、行動すること。それが課題であり、指宿市にして欲しいことであり、自分たちにできることだと思う。

2班

①「ここが自慢できる」、「ここがいい」というものについて

- ・市内唯一の振興組合で、アーケードがある。雨が降っても大丈夫
- ・歴史ある商店街である。終戦後、摺ヶ浜に通る商店街として栄えた
- ・駅から海岸線まで一直線

- ・若手経営者が進出。活気が出てきた
- ・駅前に立地し、『指宿の表玄関』

②これからどのようになってほしいか、どのようにしていきたいか

- ・歩いて楽しい賑わいの通り。買物をするだけではない通りにしたい
- ・アーケードを残し、きれいに復活。アーケードは築34年で、そろそろ限界である
- ・緑あふれ、ベンチがあり、木陰のある道（植栽は記念植樹）にしたい
- ・海岸への誘導路であり、パフォーマンスのできるスペースが欲しい
- ・魅力ある施設の構築。観光客の方が立ち寄って時間を潰せる場所が必要である

③自分たちにできることにできること、指宿市にしてほしいこと

<自分たちにできること>

- ・通りを商店、店で埋めたい
- ・商店街のコンビニ化（それぞれの商店が特徴を出して）一店一品のサービス
- ・プランターの花植え、管理

<指宿市にしてほしいこと>

- ・歩車道整備
- ・駐車場の借り上げ。ルミエールの借用は難しい
- ・中心部に公共駐車場を。コインパーキングを作るなど
- ・市全体のマスタープランを早急に策定
- ・情報の伝達をスムーズにする仕組みを。これから通り会がどのようになるのかの仕組み作り

3班

①「ここが自慢できる」、「ここがいい」というものについて

- ・アーケードがあり、雨の時など助かる
- ・歩道も広く、歩きやすい
- ・植木などあり、緑が多くなった
- ・駅の正面にあり、海へ向かうホテルへ向かうなど中心的な位置にある。観光客が通る中心的な場所にある

②これからどのようになってほしいか、どのようにしていきたいか

- ・観光客ばかりでなく、地元の人が集まれるシチュエーション作り
- ・子どもが安全に通れる場所にする
- ・お年寄りが休憩できる、日除けベンチの設置
- ・南国指宿らしい植栽
- ・芝の植え込み。歩道と車道の上に芝を植える
- ・車道、歩道と景観を考えた整備をしてほしい
- ・足湯を含め、湯煙があるような取り組み
- ・待ち時間を過ごす場所づくり。田舎なので、JR、バスの待ち時間がある

③自分たちにできること、指宿市にしてほしいこと

<自分たちにできること>

- ・植栽の管理、歩道の管理を進める
- ・今後の計画づくりへの積極的な参加を行う

<指宿市にしてほしいこと>

- ・ホテル、観光課、観光協会、商工会議所などと通り会を含め、話せるような場を作る
- ・コーディネーターを入れるなどして、トータルなデザインづくり、計画づくりをして欲しい
- ・各組織のパイプ役になってほしい。専門家が入れれば、客観的、経済的な話合いができる
- ・砂むしや温泉を使った健康づくりやスポーツ合宿、リハビリ滞在ができる施設作り

4班

①「ここが自慢できる」、「ここがいい」というものについて

- ・道幅が広い→歩きやすい

- ・車が少ない
- ・若手経営者が増えた
- ・雨の際、アーケードがあり便利
- ・駅に近く、立地が良い（観光地の駅）
- ・駅と海を結ぶ道路である
- ・花と緑と音楽がある
- ・空き店舗が少なくなった

②これからどのようになってほしいか、どのようにしていきたいか

- ・店舗の中が見えるようにする
- ・店舗が比較的広いので、古い物などが外から見える（まちなか博物館、写真、物品）
- ・歩道にベンチと花（南国らしい花）
- ・美しいまちなみ（清掃が行き届くように）
- ・ウインドウショッピングができる通り（開店時間以外にも明るい店づくり）
- ・道路（車道）を狭めて、歩道と植栽等を公園化
- ・アーケードを撤去し、新しい街並みの創生⇒街並みの統一感（海と温泉をイメージした統一感）
- ・一方通行のまちづくり
- ・駐車場があるといい
- ・バリアフリーで歩きやすい通り
- ・観光地としての商店街の形成

③自分たちにできること、指宿市にしてほしいこと

<自分たちにできること>

- ・街並みについて学習する
- ・美化活動に務める（清掃・植栽等）
- ・情報の集まる場所の創設
- ・音楽を流す
- ・人と人をつなぐ拠点づくり
- ・観光客に進んで声かけ

<指宿市にしてほしいこと>

- ・道路整備（バリアフリー、海まで回遊できる）
- ・街並み統一感のための市の指導（国際観光に向けた和風等）
- ・駐車場整備
- ・通りに休憩所の設置

【意見発表】

（組合員）

・私たちができることについてだが、各店舗が努力をして美化するということはできる。また、この町並みの歴史をもう少し勉強しようということも決まった。

・情報プラザは、実は情報が集まる場所。また商店街には音響施設があるので、商店街に音楽を流すことはできる。集まった情報をみなさんに流すこともできる。観光客に声をかけていこうという話もあった。

・先ほど若者が多く出店しているという話があったが、実は夜営業している店舗が多い。昼間店舗がしまっても、一体感がある、生きる方法があればいい。例えば南風さんで言えば、閉店中であつても窓から並んでいる焼酎を見ることができる。また店舗によっては、観光客が喜ぶお宝を持っている。それを外に出して頂ければ、観光客が楽しむことができる。またベンチがあれば、お客さんが座れる。その側には、南国のお花があればより良いと思う。

・市にして欲しいことと言えば、大きな枠組みでしか言えない。観光地の商店街を目指す、観光地＝商店街となればいい。

【その他意見発表】

（いぶすき町づくり協議会の活動内容、まちづくり構想について）

(組合員)

・まちづくりを考えていくなかで、鹿児島市電の芝生のきれいさ。これもヒントになるのでは

(組合長)

・この会合で出た意見をもとに、継続して議論していきたい。駅前中央通り、行政、町づくり協議会、商工会議所など 10~15 名ほどで、月に 1 回程度集まりを持ちたい。その会合の意見などを公表していきたい。

【まとめ】

(豊留市長)

・仕事は組織で進めなければならない。市役所の職員、市民と一緒に同じ方向性で進めないといけない。実は駅前中央通りの活性化については、市役所内部で動き出している。

(総務部長)

・健康のまちづくりを目指して、SWC (スマートウェルネスシティ) 構想ということで、指宿市で実現できないかと、市役所内部でプロジェクトチームを作って、取り掛かろうとしている。それについてはまだ始まったばかりで、今後課題を整理しながら進めなければならない状況だ。課題を整理して、実践していく段階で、各通り会の皆様や住民の皆様との話し合いの場、そして作業をどのように分担して進めていくのかの協議をする時期がそのうち来るだろうと思っている。SWC 構想は、全国規模で大学の研究機関とともに進んでいる事業なので、そのうちご相談に伺うことがあるかと思う。その際は皆さん方にもご協力いただきたい。

(豊留市長)

・今までの語る会は市長の方から市政を説明し、質疑に答える一本道だったのだが、それだと、「みんなでこれをやろう」とはなかなかならない。そうではなくここに来た甲斐がある集まりにしようと、みんなが意見を出して、本当にそれを実現しようという方針だ。今までは、協議をしてもなかなか実現されないことが往々にしてあったのだが、今回は何か一つでも実現しようというのが会の趣旨だ。

・他の団体でも語る会のなかで話し合ったことが、いくつか実行されている。「これをやろう」ということをここで話し合いたかった。みんなで話し合いをして、それが実現されることで、この会の意義もでてくる。

・観光客のために作る駅前には困ると考えている。市民が楽しいと思う通りであれば、観光客も訪れる。そのための一番のネックは駅だと思う。指宿の最大の課題は、駅によって表口と裏口と二分されているということだ。しかし二分しない駅を作ろうという場所はある。それは谷山駅、慈眼寺駅だ。もっとも良くできた駅は、唐津駅だと思う。駅がそのエリアの賑わいの中心になっている。高架になっていて、下は商店街、観光協会、物産店があって、その上を列車が走っている。JR九州にお願いに行った。「現段階では市長の個人的な思いとして提言しているけれども、まもなく商店街の意見として挙がってくる可能性がある」と伝えている。

・地元住民が行ってみたいと思うことが大切。地元の人が駅前を散歩しながら過ごせば、高齢者から子どもまで集まる。観光客にとっても市民にとっても、歩きたいまちをつくること。そういうまちを作れば多少駐車場が遠くても集客できるはずだ。

・各班の発表の中で歩いて楽しい賑わい通りを作りたいという意見があったが、大阪の高石市というところが、800m ぐらいの商店街を通行止めにして作っている。高石市には 3 本平行して通りがあるが、その中の 1 本を通行止めにしても大きな影響はないと。ただ住んでいる人にとっては、通れないと大変なので、そこでどうすればいいかといえば、出入りにポラードという柱を立てた。そして住民の方には ETC のようなカードを渡して、そのカードが来た時には、柱が下がる。そんなまちを作る取組が始まる。

・国交省など省庁が中心になって新しいまちづくりの取組が始まっている。今年 7 市による取組が始まる。私たちもそのモデルを見に行き、来年その実施計画を立ててできないかと思っている。今までは報告書を作って終わり、なにか実行しようということがなかった。やれないことはない。ただ、通行止めの問題など、警察との交渉が必要なので、総合特区という特区で行う必要がある。それを今勉強をしている。いつまでに、どのような形で実行していくのか、先ほど総務部長より説明があったように、すでに横断的な組織は作っている、ぜひみなさんと取り組んでいき

たい。

・今日提案していただいた中で、すぐに取り組むべきこと、時間をかけて取り組んでいくことを組合長の方に提案する。そして今日出た中で、やってほしいということを実行しないといけないだろうと、私は思っている。語りっぱなしにはしないと考えている。先日鹿児島指宿会の肥後さんが学生たちと指宿を回られたとのことでしたが、そのなかで、何か特徴的なことはあったでしょうか。

(肥後久雄氏)

・「健康都市のまちづくり」として、NPO法人として活動している。健康都市のまちづくりというのは、体の健康だけでなく精神的な部分もある。活動を始めて1年半になる。

・去年は町の中を花でいっぱいにしようと、個人の家やまちなかを花いっぱいにとしようと、家の玄関や庭に植えてもらおうと活動した。

・先日県立女子短期大学のワークショップで駅前から中央通りを歩いてもらった。新聞等にも記事があったように、女生徒の感想として、指宿は普通のまちだったというのがある。温泉街として有名なのに、普通のまちだったと。確かにそうだと思う。温泉街として集客しているのなら、温泉街らしい雰囲気はどう作っていくか。確かに湯煙もそうだが市内各地にある銭湯を点として、線で繋いで、面としてつないでいかないといけない。女性の方は手厳しい意見を出している。

・我々のNPOもまちづくりに取り組んでいる。中央通りはもともと地元の人のためだけの商店街だった。渡瀬通りは地元を人の通り、駅前通りは観光客通り、通りとしての特徴はそうだろうと思う。ただし、駅前通り渡瀬通り含めて、駅の玄関として取り組んでいかないといけない。そういう意味では、駅前通りに今後手を加えることで、一番良い通りになるのではと思う。

・一番は温泉のまちらしくないという意見が大きかったので、今後NPOとしても、そういう取り組みを進めていきたい。以前セミナーで聞いたが、元町と言う商店街がある。その場所は自分たちで、商店街をどうして行くかという意見は持っている。役所の方も、「商店街がこうしたいというのがあから、それに乗ってやっていくんだ」と商店街がメインで、役所はそれを手伝うということであった。ただ今日は役所の方も来られて、一生懸命やっておられるので、今後に向けて協力して一生懸命やっていければいいのではと思う。

(市長)

・ひとつだけ提案したい。警察にお願いして一週間だけ商店街を通行止めにして、そこでマルシェをやってみる。マルシェを駐車場がある場所とするのではなく、歩かないと来れない場所です。テントを張って観葉植物を並べて、模擬的なものを作ってみる。それで実感してみればいい。それを作るのは予算はいらない。マルシェをこの駅前で作って欲しい。子どもが集まりやすい夏の第2日曜日に、広場として実行して、湯煙も実行してみると。模擬的にやってみて、本当にそれが正しいとするならば、本格的に進めてみればいい。

・来年そのようなことをやってみましょうというのが、私たちの結論だ。来年この通りでマルシェができればと思う。その時は行政も協力する。

・私たちは便利なところにあこがれるのではない。時間を忘れるものに憧れる。例えば太平洋公園を駐車場にしても、歩きを楽しめる街並みだったら必ずお客さんはくる。私たちはスピード時代に生きているが、観光客は時間を忘れるひとときを望んでいる。

7. 閉会のあいさつ

・今市長さんより力強いお言葉をいただいた。できることからやってみようということで、これから少しずつだが、実現に向けて進んでいくと思う。皆様にも逐一その報告をしていきたい。